

太田市とゆかりのある

千姫様を大河ドラマに



縁切寺満徳寺



駆込み門



世界に二つしかない「縁切寺」に深い関わりがある千姫

千姫は徳川家康の孫、秀忠の娘です。幼くして豊臣秀吉の息子・秀頼に嫁ぎましたが、大坂夏の陣で夫・秀頼は自害、千姫は救出されました。豊臣家との縁切りのため世良田徳川郷の満徳寺に入ったと伝えられています。千姫はのちに本多忠刻と再婚しました。

また、秀頼と側室の間に生まれた国松は斬首されましたが、娘は千姫が助命嘆願し、養女として鎌倉の東慶寺に入りました。のちに天秀尼となり家康から縁切寺の制度を特別に許可されました。千姫母子は世界に二つしかない「縁切寺」に深く関わっていたのです。

満徳寺には、千姫が大坂より持参した「千姫遺愛の愛染明王」という優れた切金細工が満徳寺第一の宝物として伝えられています（写真）。



大河ドラマ「千姫」 誘致に向けて

2024 年秋、上野の東京国立博物館で開催された「はにわ展」は大盛況で、特に太田市飯塚町から出土した国宝「挂甲武人埴輪」はポスターやパンフレットの表紙にも使われ、まさに「はにわ展」の主役でした。五体展示された挂甲武人埴輪のうち四体は太田市から出土したことを初めて知った方も多かったと思います。

はにわに限らず、太田市には「新田荘遺跡」「金山城址」「長楽寺」「世良田東照宮」「日光例幣使道」など多くの歴史遺産がありますが、こうした先人の歴史を次代に引き継ぐことはたいへん重要な仕事と考えております。

このたび太田市は、茨城県の常総市から大河ドラマ「千姫」誘致の会にお誘いいただき、東京都文京区・三重県桑名市・兵庫県姫路市・岡山県岡山市・島根県津和野町とともに参画する運びとなりました。大河ドラマと言えば三十年以上前になりますが、「太平記」で新田義貞（萩原健一、途中から根津甚八が演じる）が登場し、おおいに盛り上がり一大歴史ブームが起きました。

さて、千姫と太田市の関係ですが、大坂夏の陣後、豊臣家と離縁するため千姫が世良田の満徳寺に入寺したと伝えられています（代理が入寺したともいわれています）。満徳寺には千姫が大坂から持参した「千姫遺愛の愛染明王」の切金細工が同寺第一の宝物として伝えられています。また豊臣秀頼の娘は千姫の養女となりのちに鎌倉東慶寺の住持「天秀尼」となりました。

徳川氏発祥の地と言われる徳川町には満徳寺や徳川東照宮、伝新田義重夫妻の墓が、隣接する世良田町には始祖徳川義季が開基となった長楽寺や、日光東照宮から移築した世良田東照宮など新田氏・徳川氏ゆかりの史跡がたくさんあります。

今回も誘致のムーブメントを機に市民の皆様、とくに若い人たちに郷土の素晴らしい歴史に触れていただいて、歴史を学ぶきっかけになればと思っております。

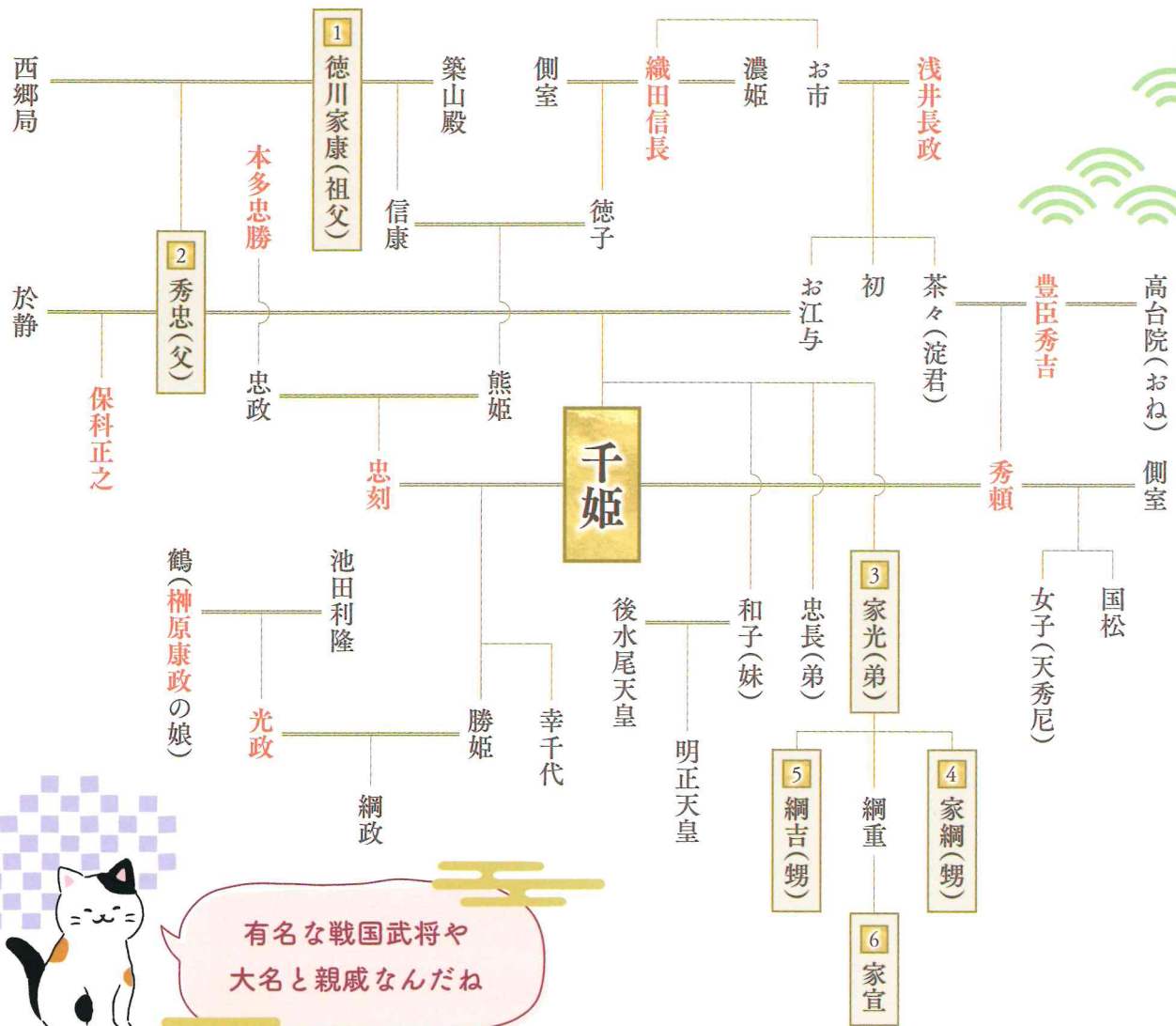


千姫クリアファイル（2種）

太田市としては誘致に向けた署名活動を展開するとともに、千姫のイラストを使ったクリアファイル（2種類）を作成・販売し、千姫と太田市の関係を知っていただくため、2025 年秋には千姫と満徳寺を題材にした朗読劇『千姫一代～上州徳川郷満徳寺の章～』の公演も予定しております。

大河ドラマ誘致に向けて、皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

千姫系図



有名な戦国武将や
大名と親戚なんだね

1 ~ 6 は江戸幕府の将軍

千姫（天樹院）略年譜

年次	年齢	主な事項
1597年(慶長2)	1	4月11日 千姫、徳川家伏見の第に生まれる
1598年(慶長3)	2	7月 秀頼と婚約
1600年(慶長5)	4	9月 関ヶ原の戦い
1603年(慶長8)	7	7月 千姫、秀頼に嫁す
1614年(慶長19)	18	10月 大坂冬の陣
1615年(元和元)	19	4月 大坂夏の陣、秀頼・淀殿自刃 8月 千姫、江戸帰着、徳川満徳寺に一時入門 (身代わりに刑部局一俊澄上人一住職として入寺) 秀頼娘が千姫の養女として東慶寺に入寺 (20代天秀尼)
1616年(元和2)	20	9月 千姫、桑名藩主・本多忠刻に再嫁
1617年(元和3)	21	7月 本多家、姫路に移封(23万石に加増)
1618年(元和4)	22	10月 長女・勝姫出産
1619年(元和5)	23	長男・幸千代出産
1621年(元和7)	25	12月 長男・幸千代夭折

年次	年齢	主な事項
1626年(寛永3)	30	5月 夫・本多忠刻没 9月 母・お江と没 11月 千姫、江戸へ戻る 12月 弘経寺第十世了学を戒師として落飾 天樹院と号す
1628年(寛永5)	32	1月 娘・勝姫、鳥取藩主・池田光政に嫁す
1629年(寛永6)	33	7月 天樹院、弘経寺本堂を寄進し、自筆の扁額を贈る
1632年(寛永9)	36	1月 父・秀忠没 池田家、岡山に移封
1634年(寛永11)	38	10月 鎌倉東慶寺を再建
1636年(寛永13)	40	天樹院二世安楽のため、家光、徳川満徳寺を再建
1644年(正保元)	48	5月 天樹院、家光第二子綱重の母代となる
1645年(正保2)	49	2月 天秀尼没
1657年(明暦3)	61	1月 明暦の大火(江戸城本丸・二の丸焼失)、千姫の竹橋の第も類焼
1658年(万治元)	62	8月 天樹院の寄進により弘経寺梵鐘を鑄る
1666年(寛文6)	70	2月6日 天樹院、江戸城竹橋の第にて没し、小石川傳通院に葬られる 遺言により遺髪(実は遺骨)を弘経寺に納め、廟をつくる

大河ドラマ「千姫」誘致の会構成自治体

岡山県岡山市

千姫と忠刻との娘・勝姫が岡山城主・池田光政に嫁いでいます。1654年(承応3年)、岡山城下を大洪水が襲った際、光政は、千姫から4万両の資金援助を受け、災害からの復旧に取り組みました。

島根県津和野町

1615(元和1)年、津和野藩主の坂崎直盛(出羽守)が、大坂夏の陣で大坂城から千姫を救出したとされています。これを起因とし、諸説あるものの直盛は自刃に至り、「千姫事件」として語り継がれています。

茨城県常総市

30歳になったばかりの千姫は、2度の不幸による心の傷を癒やすため、1626年(寛永3)、飯沼弘教寺で落飾(出家)されました。弘教寺の了学上人を導師と定め、同寺を菩提寺とし、その翌年から4年にわたり大檀那となって改修工事を行いました。その際に揮毫した扁額は今も本堂に飾ってあります。70歳で逝去された際、葬儀は江戸小石川の傳通院にて知恩院の知鑑上人を導師として執り行われました。その際に分骨を納める墓が弘教寺に建立されています。

茨城県常総市商工観光課 QR

署名をお願いします。



群馬県太田市

大坂夏の陣後、豊田家と縁を切るため、千姫は徳川郷(太田市徳川町)にある徳川家の始祖・義季が開基となって建立した満徳寺に入寺し、本多忠刻と再婚したと言われています。これにより満徳寺は離婚だけでなく再婚の許される縁切寺になったと伝えられています。

兵庫県姫路市

千姫は夫・本多忠刻が没するまでの約10年間、姫路城で暮らしていました。一男一女にも恵まれ、生涯で最も幸せな時間を過ごしたと言われています。しかし幸せは長く続かず、長男の病死や流産、さらには夫・忠刻の病死という悲しみの中、江戸に戻ることになります。

三重県桑名市

桑名と熱田を結ぶ東海道唯一の海路・七里の渡で船を捌く本多忠刻を見て千姫が一目惚れ、という場面がよく知られています。そのような男女の出会いの場、千姫の運命を変えた場所と位置付けられるのではないかと思います。また、結婚直後は桑名で過ごしますので新婚時期を過ごした場所とも言えるでしょう。

東京都文京区

千姫が70歳で逝去されたのち、小石川の傳通院にて、知恩院の知鑑上人を導師に迎え葬儀が行われました。徳川家康の生母・於大(おだい)の方の菩提寺となったのち、徳川家が厚く帰依した傳通院には、現在も千姫をはじめとした徳川ゆかりの女性の墓が多く残っています。

徳川氏ゆかりの地

資料館
緑切寺
満徳寺

- 開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合、翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料：一般(個人)200円(団体20人以上)160円/中学生以下 無料
- 〒370-0425 群馬県太田市徳川町 385-1
(東武伊勢崎線 世良田駅、JR 高崎線 深谷駅下車～タクシー利用)
- TEL 0276-52-2276

